



多文化共生

intercultural cohesion

めざして30年。
これまでも
これからも。



(公財) 箕面市国際交流協会 創立30周年記念事業

2023年
2月23日 (木・祝)
13:30 ~ 16:00
箕面市立文化芸術劇場
大ホール

- ・記念式典
来賓挨拶 感謝状授与
- ・記念映像の上映
記念ドキュメンタリー「ちがいが織りなす "私たち" のコミュニティ」
- ・シンポジウム
「真の共生とは何か ~今、あらためて地域の国際化を問い直す~」



※駐車場に限りがあります。
公共交通機関をご利用ください。

主催：(公財)箕面市国際交流協会 Minoh Association For Global Awareness (MAFGA) TEL 072-727-6912 Email info@mafga.or.jp
後援：箕面市/箕面市教育委員会/(公財)箕面市メイプル文化財団/大阪大学/(公財)大阪府国際交流財団/(公財)とよなか国際交流協会/
(公財)吹田市国際交流協会



創立30周年 記念式典 & シンポジウム



PART 1 記念式典 来賓挨拶、感謝状授与

PART 2 記念ドキュメンタリー ちがいが織りなす "私たち" のコミュニティ (2023年・45分)

国際交流活動に取り組む市民の活動から生まれた箕面市国際交流協会。30年の間、時代に応じて事業を変化させながらも、国籍や言葉、文化背景の異なる多くの人々がそこにに関わり、それぞれにとってかけがえのない場所、コミュニティとして耕されてきた。その一端をボランティア、子ども、スタッフ、シェフ…など様々な人々の声と姿を通して映し出す。



PART 2 シンポジウム 真の共生とは何か ~今、あらためて地域の国際化を問い直す~

この10年間に、日本で働く外国人労働者は2倍以上に、箕面市でも外国籍市民は2割以上増えた。一方で、新型コロナウイルスのパンデミックやウクライナ情勢などで社会状況が不安定化する中、反移民的な言説やヘイトクライムなども深刻化している。すでに多様化した社会の中で、真の「共生」とはどういうことか、私たちには何ができるのか、様々な分野で活躍するパネリストが語る。

コメンテーター 小島祥美

東京外国語大学多言語多文化共生センター長/准教授



大阪外国語大学外国語学部中南米地域文化学科（スペイン語専攻）卒業後、大阪大学大学院 人間科学研究科 博士後期課程修了。小学校教員、NGO職員を経て、岐阜県可児市教育委員会の初代外国人児童生徒コーディネーター、愛知淑徳大学 交流文化学部教授を経て、2020年9月より現職。現在は外国につながる子どもの保護者らと地域で交流しながら子育て中。

シンポジスト



ジャハドザデ・ベヘナム
大阪大学人文学研究科外国語専攻 准教授

1978年生まれ（出身国はイラン）。テヘラン大学外国語学部日本語日本文学学科を卒業後、同学科の講師をつとめる。その後京都大学人間・環境科学研究科博士課程へ留学し、2014年に後期課程修了。2014年より現職。
専門は一般言語学、外国語教育、趣味はガーデニング、料理、読書、知らない人と話しあうことなど。

シンポジスト



増田麻美子
文化庁 国語課 日本語教育調査官

元日本語教師。大学卒業後、韓国で教壇に立つ。帰国後、日本語学校で留学生や生活者、就労者、難民等への日本語教育、教師養成などに15年携わる。NHK放送技術研究所プロジェクトスタッフとして「News web EASY」の書き換えを担当。認定NPO法人難民支援協会の日本語サポートスタッフとして震災後の被災外国籍女性支援に携わる。2012年から文化庁に勤務。

シンポジスト



高橋太郎
日本ベトロ株式会社 代表取締役

大阪府箕面市出身。日本人の父とフィリピン人の母との間に生まれる。5年間のフィリピン勤務を経て、2004年に帰国。大阪市内で外国人への語学教育や就労支援事業を立ち上げる。地元箕面市では、青年会議所や地元小学校PTA等の会長を歴任。2022年4月より教育委員を務める。公益財団法人東亜総研理事。

シンポジスト



田中二一ナ
合同会社 Cinergia 取締役・クリエイティブディレクター

1991年ブラジルバイア州生まれ。6歳の頃日本へ移住、大学卒業後、1年程ブラジルへ一時帰国。日本の映像専門学校で映像を学ぶが、1年で中退。その後、映像制作会社を通してディレクターとしての経験を積み上げる。2019年に現合同会社を設立。2021年映画『ニワトリ★フェニックス』で助監を務めたほか、2022年からは女優としても活動を拡大。